



学校教育目標 広い視野と豊かな心を持った、
健康でたくましい生徒の育成

東中だより

圓 困 目 標

- ・健康でたくましい生徒
- ・人の心の痛みが分かり、
思いやりのある生徒
- ・進んで学び、感動できる生徒
- ・規律を守り、責任を果たす生徒
- ・厳しさに耐え、自ら努力する生徒

お知らせしたい、学校の出来事アラカルト

■本の寄贈がありました！

一学期のことで紹介が遅くなってしまい申し訳ありませんでしたが、桂町在住の近藤嘉明様より、東桂中学校の生徒のためにと、ご自身の蔵書の中から本を寄贈していただきました。当日は、お礼の気持ちをお伝えしながら、校長室にてお話をさせていただきましたが、たくさんの貴重なお話を伺うことができました。

中でも、近藤様が学生時代の学校のお話は印象に残っています。日本が戦争に突入し、学校に登校しても勉強はできず、勤労奉仕や作業をたくさん



していたことなど、当時の様子を聞かせていただきました。自分の人生を自分が自由に思い描き、自由に選択できる世の中で勉学に励むことができること、そんな水や空気のようにあたり前のことがあたり前でなかった時代があったり、今でもそれが現実にあたりするということに想いを馳せたとき、「今」が自分にとってどれほど貴重で、どのような意味を持つのか、改めて考える機会にしたいと思わせていただきました。

また、地域で生活をしていて、小中学生から挨拶をしてもらうと、本当に嬉しいことなどの感想も聞かせていただきました。このようなお話を通し、「地域の中にある学校」の意味や意義についても、改めて考えることのできる機会となりました。このことは、生徒たちにも考えて欲しい事柄だとも思いました。

近藤様、改めまして、誠にありがとうございました。

そして、これまでも、地域の方々から、生徒たちに対するお褒めの言葉や心配される様子などのお声をいただいております。このように地域の皆様に生徒たちを見守り育てていただく中で学校教育も成り立っています。これからも地域社会から信頼される学校づくりに努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

■選抜ソーラン隊発表（東桂文化祭）

本年度は、東桂地区の文化祭が対面で開催される見通しです。現在、地

域の事務局の方々を中心に、その準備が進められていますが、東桂中学校も、小学校と



もに出演の要請を受けました。貴重な機会をいただき、ありがとうございます。

現在では、これからの時代の学校の在り方について、働き方改革も含めて国を挙げて取組を進めている途上ではありますが、

「地域とともにある学校」ということも大切な課題となっております



ます。そこで、数年ぶりに開催される東桂地区の文化祭にあたり、校内でも検討した結果、選抜チームとしてのソーラン隊として出演することとしました。この時期の教育活動は、年間計画の中でも大変立て込んでいる時期で、生徒たちや教職員の負担、新型コロナやインフルエンザ等の感染症をはじめとした生徒・教職員の心身の健康維持・管理等、課題は山積していますが、担当教職員は、「やるからには生徒たちにとって意義あるものにした」と工夫しながら取組を進めています。生徒たちも、様々な学習活動があり、時間調整や体力的な面などで大変なこともあります。昼休みや朝早く登校するなどして、よい発表にするために考えや意見を出し合いながら練習しています。

「学校の教育課程と地域における活動の連携や調整」については校内で今後も検討していく課題とはなりますが、まずは本年度、11月11日(土)14:00から、会場の東桂小学校での発表になります。生徒たちへの励ましをよろしくお願いいたします。

■交通安全弁論大会優勝

去る8月30日(水)、大月警察署において、大月警察署管内、防犯・交通安全弁論大会が開催されました。本校からは3年生の白川菜里さんが、交通安全弁論大会に出場しました。そして、見事優勝し、10月下旬に行われる県大会へ出場することとなりました。



夏休み明けの毎日の授業や行事などの取組があっただけで忙しい学校生活でしたが、当日に向けて、地道に練習を重ねました。校内でも、教職員や生徒たちの前で事前練習としての発表を何回か行ってきました。その事前発表を聴き、他校の参加者の様子はもちろんわかりませんが、

この発表は、かなり優秀な成績を残せるのではないかと感じていました。その理由は、内容面と発表面の両方から感じていたことによります。

まず、内容面ですが、「ながらスマホは、よいかよくないか」、「歩行者はどちら側を歩くか」といった、簡単なクイズ問題を聴衆に問いかけながら弁論がはじまります。途中、説得力を増す具体的なデータも挙げながら、クイズに出してもあたり前にわかる事柄が、実際に、本当に実行できているのかどうかを白川さんは聴衆に問いかけます。それは、車の運転手側だけの問題ではなく、自転車側や歩行者側が実行できていないがために起こる事故もあるとの訴えです。コロナ禍で犠牲となった多くの命の存在にも触れ、あたり前のことを本当にきちんと実行することで交通ルールを守り、命を守ってほしいと訴える弁論です。

次に発表面ですが、内容がどんなに素晴らしいものでも、伝え方や表現の仕方次第で訴える力は変わってきます。白川さんの発表は、いわゆる表現の派手さを売りにするようなものではないと思いますが、白川さんの落ち着いた思いやりある人柄を背景に、聞きやすい声と適切な声量でじっくりと語り、聴衆の隅々にまで、気持ちに染み入るような表現力による、とても自然ですが、とても個性的で説得力のある弁論だと感じます。

私も、悲しいことに何人かの教え子を交通事故で亡くしています。県大会では、各地区から選ばれた強豪が集うと思いますが、「交通事故で命を亡くするようなことのない社会にしていきたい」という、本来の交通安全弁論の目的を大切にして、参加してきて欲しいと思います。県大会で行う弁論は、社会に向けて大きく役に立つ行為であり、とても貴重な「社会貢献」となります。そのことを意識して、精一杯チャレンジしてきて欲しいと願っています。

白川さん、人として大切な姿を見せてくれて、ありがとう！

SDGsの授業(技術科)

技術科を担当する流石皇甫教諭は、世界的課題となっているSDGs(持続可能な開発目標=Sustainable Development Goals)を扱った授業を行いました。各国が、自国の生き残りをかけて振る舞う世界において、それだけではそもそも地球自体が生き残っていけなくなることが予想される現代において、全人類で取り組もうとする国際目標や課題、達成基準がSDGsです。

授業では、江戸の人々の暮らしから現代においてもSDGsを達成するために活かせるものがないかを考えました。

SDGsは都留市でも力を入れている課題ですが、9月の都留市広報で、この授業の様子が紹介されました。生きていく上での人間の知識・技術・力などは、時代の変化にあわせて必要とされるものが変わってきます。教育においては、人間として時代を超えて変わらないもの(不易)と、時代の変化にあわせて変えていくもの(流行)のバランスや調和を考えていくことが重要です。

東桂中学校の生徒たちが生きるこれからの時代がどのようなものとなるのかを見据え、学校・保護者・地域・行政が力を合わせて教育に取り組んでいきたいものだと思います。そして、生徒自身がこれからの時代を見据えることができ、「不易」と「流行」を意識して、自らの考えや判断で自分自身を育てていくことができるようになっていって欲しいと願います。

～都留市広報9月号より～

私たちが取り組んでいます!

東桂中学校



東桂中学校では、2年生の技術・家庭科の授業で「捨てるはずのペットボトルを使用した野菜栽培」など、「飢餓をゼロに」や「つくる責任つかう責任」といった4つのSDGsの目標を達成するための取り組みを行っています。

授業では、江戸時代の暮らしについての動画を視聴し、現代の生活にSDGsの目標を達成するために活かせることがないかを考え、意見を交わしました。技術・家庭科の流石先生は、「ペットボトルという普段ゴミだと思っている小さなものの活用方法を考えることから、生徒たちにSDGsについて体感してもらい、その思いや取り組みを家族や地域に広めてほしい。」と話しています。

皆さんも自分にできることから取り組んでみましょう!



■都留文科大学交換留学生在が英語の教育実習を行っています。

東桂中学校では、9月19日(火)から、月曜日と金曜日を中心に、ベルギーからの交換留学生(英語教育実習生)の



セレナ先生を迎えています。セレナ先生は社会人ですが、現在は母国のHasselt市にあるPXL大学で教育について学んでおり、都留文科大学の交換留学生として来日しました。

日本へは以前にも訪れたことがありますが、日本の文化や歴史などに興味を持つ、日本の大ファンです。そんな先生は、日常の生徒たち



の学習活動を参観したり生徒たちとふれ合ったり、日本の学校制度などを学んだり英語の授業を行ったりと、英語の授業と都留文科大学での理論学習や研究を中心に、母国で教師として活躍できるよう、一生懸命学んでいます。生徒たちにとっても、通常のALT(英語指導助手)のポール先生だけでなく、ベルギーから来たセレナ先生と学べることは意義のあることだと思います。

ベルギーの公用語はオランダ語、ドイツ語、フランス語ですが、セレナ先生は母国ではオランダ語を話すことが多いようです。オランダ語は英語とは近い親戚にあたる言語ですが、セレナ先生は母語であるオランダ語と同レベルの英語話者です。



富士・東部地域の世界文化遺産をはじめ、たくさんの文化・歴史・文物・人々に触れ、日本をたっぷり体験して帰国してもらいたいと思います。そして、政情不

安定なニュースを聞くことも多くなっているヨーロッパに戻ることにありますが、世界が惹かれる日本の文化や教育などについての学びを活かして、ヨーロッパでも次世代を担う子供たちをしっかりと育てていただきたいと思えます。

■ 3年生、合同「保健」授業

去る9月21日(木)、3年生を対象に、山梨県立大学看護学部の本間隆之教授を外部講師としてお招きし、保健の授業を実施しました。内容は、「エイズ」、「性感染症」などに関わって、「性」と「生きること」について考える授業でした。



授業の中では、事前に生徒たちに回答してもらった「性」に関する意識調査などの結



果を振り返りながら、「性」というものがどういうもので、それは自分自身の生活や人生の中でどのような意味があるのかなどについて、本間先生の豊かな指導経験を活かしながら授業を進行していただきました。生徒の発達段階から、このような問題を真正面から適切に考える機会は、普段はなかなか持てないかもしれません。「性」は、

人生を生きる中では、自然にそこに存在することであり、次世代を担う新しい「生命」にもつながっていく問題でもあります。

今回の授業で学んだことを活かし、今後も充実した人生を歩んでいけるように、日々、有益な学びを積み上げていって欲しいと願っています。



生徒の育ちをより多くの方々の力で。

現在の学校では、地域や社会から、いろいろな方々の力をお借りし、生徒たちの教育にあたっています。

また、社会の変化が激しいので、常に新しい時代に必要とされる資質・能力を育成するための教育を行っていく必要もあります。

今回の学校だよりでも、SDGsのような、時代の変化の中で要請される教育課題に関わる教育実践や外部講師を招いての多様な学び、地域とのつながりの中での学校の取組などについて、紹介しました。

新型コロナウイルス感染症の、感染症としての位置づけが5類となり、今、学校では、単純に新型コロナ前の教育体制に戻るのではなく、時代の変化や要請に基づいて学校体制をどのようにしていくのか検討しながら教育活動を展開しており、それは全国的にも模索されています。

教職員の働き方改革も含める中で教育効果や教育成果を最大化できるよう、生徒たちの育ちに関わる営みを、学校だけでなく、地域や社会の方々の力もお借りしながら工夫していきたいと思えます。

今回は、パラリンピック車いすバスケットボール元日本代表の方をお招きしての授業の様子をお伝えしたいと思います。

